

満蒙に於ける日本人子弟の教育

1435

308

第七、滿蒙に於ける日本人子弟の教育

一、在滿内地邦人に對する教育は滿洲國建國宣言に鑑み民族協和の精神を涵養せしむる爲め國際的教育を施し且つ滿洲の環境に適應性を具備せしむる爲め、從來の制度、並に教課内容に互り根本的の改変を加ふるを要す。従て現行法令中右の趣旨に矛盾撞着する点は急速に改正する要あるを認む。

内地と氣候、風土等が全然異なる滿洲に於ける邦人教育が、何故に内地延長主義で無特色であつたかと云ふに、これ

(A) 我が學制が劃一的であり

(B) 在滿邦人が内地延長主義を喜ぶ

(C) 教師も亦多年の習慣を墨守するを好む

からであつた。けれども「生糸線としての滿洲」であるなら

ば、此滿洲に適應性を具有せしむるやう訓練するのが、我が教育の眼目であらねばならぬ。これについて、我が窮屈なる文部關係の諸法令を滿洲に限りても改正する必要がある。

民族協和の精神涵養は、談は容易にして實行極めて困難であるか、これには次代國民として幼少時より其環境に適應すべく習熟せしむる外はない。言語の疎通、感情の接近、風習の了解、歸一が大切である。此点に於て「共學」も出来得る丈けは廣く行ふ必要がある。

又た滿洲に於ける將來の日本人は、實際的、勤勞主義の教育を施すべきである。小数の民族を以て多数者の先頭たらしめんとするには、頭腦と氣魄、聰明と品格が必要である。

ソウエート・ロシヤが革命の當初より今日に至る迄多数

國民の怨府となりながら、共産黨員の専制政治を敢行して居るのは、レーニン^が革命の當初より、「教育」に着眼し、年次手筈に「共産主義」を注入したからである。故に滿洲に於ける邦人勢力の消長は繫つて、その教育の如何にありとも言へる。

二、滿洲國の教育は欧米又は日本の直訳なる可らず、宜しく、滿洲の實際に即し、大多數の教育は農・工・鑛業本位、即ち職業教育を本旨とし支那人の本質たる、平和愛好の心を助長し、生活の保障より民族融和心を涵養し、治者に無関心なる支那の庶民思想の傳統に終始せしむるを要す。

支那には古来、欧米風の國家觀念はない。天下は國家であり、中國は天下である。故に支那が世界であり、甬餘は地球片隅の夷狄である。而して其政治觀念は治者は乱なければ可

なりで、被治者は自己の生活に壓迫干渉さへなければ善政である。敲腹撃壤帝徳何んぞ吾れに在らむと、謳ふのは千古の理想である。即ち支那人は一種の無政府主義者である。此無政府主義者を長眠よ、覺さむとせしが三民主義であるから、三民主義の横行は支那の舊人は喜ばない。満洲國にあっては、徒に日本の若人の「新らしがり」を發揮してはならぬ。教育は舊来の此思想を骨子とし、職業教育を本旨とし、日本語の普及を大に行ふことが先づ第一の任務である。

教師の養成は日滿両方面に極めて大切の要務である。満洲教育専門學校は此意味に於いて復活利用すべきである。